

随想

第188回
(最終回)

市政24年間を回顧して想うこと

―土岐の輝かしい未来を信じて―

土岐市長

塚本保夫

「親の世代と子の世代が同じ地域に住める街づくり」を掲げて、約四半世紀にわたり、現在と未来に責任を持てる行政を心掛け、一意専心努力してまいりました。

私が市長に就任いたしました当時は、ゴルフ場開発ブームでありましたが、一方で、東海環状都市帯構想が提唱され始めておりまして。

なだらかな丘陵地に囲まれた本市は、ゴルフ場の適地であるとともに、土地生産性の高い商工業適地でもあると考え、土地利用の基本方針として、市議会で「ゴルフ場でもという所は、賛成できませんが、ゴルフ場しかという所では、地域振興のため考えましょう」ということを表明いたしました。

これに対して、強い反論や反発がありましたが、誠意を持って話し合いを続けた結果、最終的には、温かいご理解をいただき、より高度で有効適切な道が開けてまいりました。現在では、東海環状自動車道が開通し、土岐南インターチェンジも開設され、土岐プレミアム・アウトレットの進出に続き、有力企業の立地も具体化しつつあります。さらに、泉町北部でも広大な工業団地アクア・シルヴァの開発が進み、優良企業の集中立地が期待さ

れ、東濃地方活性化の重要拠点になるうとしております。

また、全国総合計画で位置付けられております東濃研究学園都市構想では、その代表例として、自然科学研究機構・核融合科学研究所が開設され、世界最先端の研究成果を誇り、世界の頭脳である学者・研究者が多数本市を訪問され、研究に取り組んでおられます。

天然資源の乏しいわが国は、人材こそが最大の資源であり、グローバル経済下では、科学技術創造立国と知的財産権立国こそが国であり、産学連携による新技術開発が極めて重要な課題であります。

大切な地場産業とともに、先端産業の導入により、産業構造の高度複合化を進め、若年雇用の拡大を図ることが、少子・高齢社会を

克服する地域戦略であり、おかげさまで現にその見通しが立ちつつあります。

さて、市民生活に密接な関係のあります具体的な課題につきましては、皆さまの温かいご理解とご協力によりまして、総合計画に従い順調に整備を進めることができました。

国や県のご尽力を賜り、治水安全度の飛躍的な向上と、中央自動車道と東海環状自動車道が市内で交差し、それぞれにインターチェンジが開設され、やがて三つ目の可能性も検討され、高速交通体系の重要な結節点として、その利便性は急速に高まり、国道・県道の幹線道路の整備もバイパスなどで進んでおります。

また、公共施設の建設に当たりましては、寒暖の差が大きく雨量の多いわが国の気候風土を考え、従来、鉄筋コンクリートは陸屋根（平らな屋根）が常識化されておりましたが、建築学的に不合理であると考え、原則として瓦屋根方式を取り入れ、雨漏れのない建築を目指し、その後、各地の建築モデルになったと自負しております。

そこでまず手掛けましたのは、肥田中学校であり、その後、土岐津、濃南、泉、駄知、西陵の全中学校の改築をはじめ、体育館、柔



初当選(昭和58年4月27日)の
ころの塚本市長

剣道場、プールの整備を進め、小学校では、下石と泉の全面改築と各校で体育館、プール、ワークスペースなど、息つく間もなく取り組みました。また、支所と公民館につきましても、鶴里、曾木、肥田支所の改築と、鶴里、肥田、下石、泉西、駄知、妻木、土岐津の公民館を建設し、駄知体育館の改築も行い、それぞれが「特色ある公民館」として、有機的に連携され、充実した生涯学習が展開されるのを願ってやみません。

保健・医療・福祉については、総合病院建設をはじめ、ウエルフェア土岐、すこやか館、やすらぎ、恵風荘、ひだまり、ひだ保育園、つまぎ保育園、肥田児童センター、バーデンパークSOGIや追沢団地市営住宅の建設などとともに、土岐市駅をはじめ、各公共施設のバリア・フリー事業（エスカレーターやエレベーターの設置）を進め、市民バスの運行も始め、現在は、とき陶生苑を風光明媚な場所への移転改築を進め、全個室化を目指し、理想的な整備を推進しております。

また、産業政策では、地場産業振興のため、セラトピア土岐、セラテクノ土岐、どんぶり会館、美濃陶芸村、国指定史跡「元屋敷陶器窯跡」を中心とする織部の里公園などの整備や高強度給食用食器の開発や産業観光推進のための各種施策を展開し、織部の日記念事業や日本現代陶彫展・ユーモア陶彫展も回を重ねて開催し、陶芸文化の発展と、やきものの彫刻のある街づくりを通して、世界でもユニークな「陶彫の土岐」の基盤は、出来上がったものと考えております。



現在の塚本市長

また、産業構造の複合化を目指して、企業誘致の団地開発を進め、下石西山、鶴里西ノ平、大富北部の各工業団地には、それぞれ立派な企業が多数進出され、地域活性化と雇用拡大に寄与していただいております。これに続いて現在は、土岐津西山地区と泉町北部で大規模な有力企業の集中立地の気運が急速に高まっており、少子高齢社会を乗り切る道が拓けつつあります。

何としても、若者の定着が必要不可欠の要件であるからであります。

次に、生活環境面では、県下有数の最終処分場に続き、環境センターと衛生センターが完成し、美しが峰の火葬場と斎場も立派に完成し、ご利用いただいております。

さらに、消防・防災面では、消防庁舎・防災センターに続き、南部消防庁舎・コミュニティ防災センターと濃南分駐所も完成し、消防機材や消防水利の整備も進み、消防団活

性化の中核拠点施設も泉、駄知、妻木、土岐津に完成し、さらに、下石と肥田で計画であります。

公園・道路・河川・橋などの都市基盤整備につきましては、総合公園、せせらぎ公園、織部の里公園、学園都市線、泉北部線、荒神洞線などとともに、国道や県道のバイパス建設に努力し、土岐川をはじめ、各河川の改修と新土岐川橋、永久橋、神明橋などの多くの橋の架け替えをすることができました。

最後に、ライフラインとしての上・下水道につきましては、本市の複雑な地形を克服し、上水は、全市給水体制が整い、下水は、高度処理を目指す浄化センターを中心とする公共下水道と農業集落排水、合併浄化槽を適宜に組み合わせ、下水道普及率は9割に近づき、全市水洗化の見通しも立ちました。

以上、過去を振り返り、市民各位のご理解とご協力を賜りましたことを想い、感慨無量であります。

なお、厳しい財政状況が続いており、夕張市問題が話題となっておりますが、某経済専門紙が「自治体破産危険度ランキング」を発表され、全国804市・区の中で、半数に当たるワースト400を公表しておられますがおかげさまで当市は、そこには入っておりませんのでご報告いたします。

市民各位に衷心より感謝申し上げ、土岐市の恵まれた基盤の上に、さらなる発展を信じてやみません。